



REALE CUP

レアーレカップ



U-12 REALE CUP 2021

中伊豆ワナリーヒルズ サッカースタジアム

2022年10月30日
静岡県の小学生&保護者

200人

日本で育つ子どもたちに
「本気」になれる場所と
「社会貢献」するきっかけをつくる

REAL WORLDは、一人一人が自分を理解し
自分を活かす生き方ができる人間になる
そのための「環境ときっかけ」を作り続けます。
レアーレカップも、その1つ。
今の日本の子どもたちの育ちに足りない
2つのポイントにアプローチしています。

●出場チーム●

ALA裾野
ANTHEM SOCCER CLUB
さなるスポーツ少年団サッカー部
裾野西サッカースポーツ少年団
SEPALADAスポーツクラブ
FC VENTURA
Mare FC
FC REALE

子どもたちが「本気」になる
別次元の環境を
大人たちが「本気」でつくる

別次元の環境をつくる ①

前日からの会場セッティング

今大会は、中伊豆ワナリーヒルズでの開催となりました。会場セッティングのためベストプロデュースの方々を始め主要スタッフは前日から会場入りして準備を開始。当日も早朝から保護者が集まって設営を行いました。芝生のグラウンド、その向こうに富士山を眺める心高鳴る会場が舞台となりました。

別次元の環境をつくる ②

プロが支える舞台裏

プロのゲームのように音楽と共に入場。MCが選手の名前を読み上げ、試合が始まると、活躍の場面、その一瞬の表情をカメラマンが追う。同時に、AIカメラによる動画配信で、会場に来られなかったチームメンバーにも試合経過がライブで届けられる。ファイナルゲームでは、生演奏でのファンファーレが会場に響き渡る。たくさんのプロの方々の惜しみない協力のおかげで、子どもたちの心に火がつく環境づくりが出来ています。

別次元の環境をつくる ③

活躍への賞賛は惜しみなく

マンオブザマッチの選出、全試合を通してのMVPやベストGK、DF、MF、FW、得点王など、選手の活躍に対しての表彰には、トロフィーやメダルのほか、スポンサー企業からの副賞もあり、素晴らしいプレーを惜しみなく賞賛することができます。

人助けランキング世界最下位とされる日本*

しかし、「思い」がないわけではない

レアーレカップは、思いを行動につなげる「きっかけ」

*英国「チャリティーズ・エイド・ファンデーション(CAF)」公表のインタビュー報告書(2019・2020)

世界の国々と比較して、社会貢献が暮らしの中に「文化」という域では根付いていない日本。思いがないわけではなく、思いを行動で表現する機会や仕組みが少ないと考えるならば、その場を用意し、それをきっかけに次の一步を踏み出してほしい。

「参加費は、誰かにプレゼントできる君のシューズ」それがレアーレカップの参加条件。REAL WORLDは、取り組みのすべてが、望む未来につながるアクションであることを目指しています。

当日に至るまでの数ヶ月に及ぶ、関係者と保護者の熱心な取り組みによって開催することができました。

One Team, One Family その底力を肌身で感じる時間でした。



今回集まったシューズ124足は
元サッカーエチオピア代表で経営者の
ヨナス・シレシさんのご協力を得て
エチオピアの団体に届ける予定です。



【Voice】本気と社会貢献 それぞれのレアーレカップ

FCレアーレと参加チームの声

●FCレアーレ

5、6年生で作ってきた大会だから、いつもの試合とは全然違って感じられた。試合では、普段練習していた場面が来て、ヘディングが決まってすごく嬉しかった。試合は、ミスで失点して悔しかったけれど、自分なりにモチベーションを落とさないよう頑張りました。今回良い結果が残せなかったけれど、次のレアーレカップでは、FCレアーレが1位をとってほしい!

長田蒼空選手

卒団前にこの大会を経験させたいという強い思いが私にあり、準備も率先して取り組みました。当日早朝から下級生のご家族も手伝いに来られ「チーム」の良さを実感。普段レギュラーではない子どもも、この大会を目標に頑張り、出場の夢を叶えました。子どもの心に火をつけたマンオブザマッチ。子どもの「挑戦」を感じました。「本気と社会貢献」がテーマですが、子どもも親も、全部「本気」の大会でした。

山田真己さん(保護者)

本気で優勝を目指したものの敗退。全員落ち込みましたが、みんなの応援を思い出し、感謝の思いが湧いてきて、エチオピアに靴を届けるまで頑張ろうと誓いました。そこから変化が始まりました。課題が浮き彫りになっても、誰かの一言で空気が変わる。「全員で乗り越えていく」泣いていた子も、文句言っていた子も、不貞腐れていた子もそれをしなくなり、一人一人変わっていました。感謝。そして自分と仲間を信じることの大切さ。今大会は、彼らが大きく成長するきっかけをくれました。

三好言コーチ

●ALA裾野

音楽、プロのMCやカメラマン付きで、プロの雰囲気を味わえて楽しくプレーができた。大会で優勝できて嬉しかった。

土屋尋跳選手

子どもたちが楽しくサッカーをしている姿を見て、親としても嬉しかった。いつもと違う素晴らしい環境でプレー出来たことは良い経験になったと思う。

土屋由衣さん(保護者)

素晴らしい大会に参加させていただきありがとうございました。これまでにない環境でプレーできて良い経験になったと思います。最後にFCレアーレ監督三好様をはじめ保護者の皆様、大会の企画運営をして頂いた皆様に感謝申し上げます。

土屋雅典コーチ

●SEPALADAスポーツクラブ

大会後、子どもたちの様子がどこか違う。プロに近い試合環境を体感して、まさに「本気」になって、サッカーに取り組む姿勢に真剣さが出てきました。今回は負けて悔しかったのですが、同時に私たちもこういう大会をしたいと熱くなりました。私はサッカーの指導者ですが、子どもたちに「プロになれ」ではなく「いいやつになれ!」と言っています。サッカーは人間育成のツールだと思っています。「指導者」の自負を持って本気でやる。その思いを大いに刺激された大会でした。

田中和喜代表

●さなるスポーツ少年団サッカーチーム

コロナでずっと観客がいなかったのに、会場に人がいっぱいいて驚いた。試合では、レアーレから1点決めて嬉しかった。ジャイアントカズキさん、かっこよかったです。栄養の話も大事ってわかった。僕は、よく募金をします、今の自分にできることだから。参加費が自分のシーソーっていうのも、人のためになるからいいと思った。レアーレカップに出ることができてありがとうございました。

森本蒼亮選手

常識を越えた大会でした。コロナ禍で、無くて当たり前になっていた開・閉会式があり、参加費が「靴」とか。ジャイアントカズキさんのことは、帰りの車中でも盛り上がり。食育講座も、その後、子どもなりに意識している様子が見えます。子どもは知らぬ間に自分に必要なことを学び続ける力をつけている。この大会を通して、彼らの成長を実感しました。朝4時出発もなんのその!この経験はずっと心に残ると思います。将来OB大会をやってほしい。その日を楽しみにしています!

森本亜衣さん(保護者)

試合ごとの入退場、マンオブザマッチの表彰など「いい大会だ」と保護者もみなさんおっしゃっていました。ジャイアントカズキさんのYouTubeを子どもが楽しそうに見ているのは知っていたのですが、本人の姿を見て、あまり感情を出さない子がすごく嬉しそうでした。

横原貴之さん(保護者)

素晴らしい大会に参加させていただきありがとうございました。これまでにない環境でプレーできて良い経験になったと思います。最後にFCレアーレ監督三好様をはじめ保護者の皆様、大会の企画運営をして頂いた皆様に感謝申し上げます。

土屋雅典コーチ

●ANTHEM SOCCER CLUB

試合毎のマンオブザマッチに本気になりました。大事にしていたシーソーズ。捨てるんじゃなく使ってもらえるのは嬉しい。受けとってくれるエチオピアの人々に頑張ってもらいたいです。

武内秀磨選手

会場に入る前からBGMやMCのアナウンスが聞こえ、選手紹介がされていて、「本気だ」とテンションが上がりました。社会貢献のシーソーズの寄付。子どもにとって大事なシーソーズは、なかなか捨てることができません。このような機会をいただき役立ててもらえるのは嬉しいです。

武内康介さん(保護者)

「本気と社会貢献」という明快な目的があってわかりやすく、社会貢献も、集めたものがどこに運ばれ、どのように使われるのかが明確で、偽善がない。子どもの視野を広げる取り組み、そして、地域に応援されるチームになる努力。レアーレカップには、私たちの思いと重なるところが多くあります。

並木卓コーチ

●裾野西サッカースポーツ少年団

一番印象に残っているのは「マンオブザマッチ」。1試合目で実際に選ばれて、俄然やる気になりました。すごくモチベーションが上がったし、MVPのインタビューはすごく気持ちよかったです。

渡邊ののは選手

レアーレカップでは、審判や運営などの保護者の手伝いがなく、試合をゆっくり観戦できました。表彰式で予定されていた保護者の表彰。今回は該当なしでしたが、これだけの大会を運営されていたFCレアーレの保護者の方々にこそ、賞を贈られたらよかったのだと思います!と思いました。

渡邊晋輔さん(保護者)

コロナ禍で自分の子どもの観戦もままならない中、保護者は「より近いところで応援できた」と嬉しそうでした。子どもたちも久しぶりに本気で目一杯走ることができて、本当によかったです。「社会貢献」もテーマの大会。子どもたちはどこまで理解しているかわかりませんが、全部理解できなくても、何かしら彼らの心の中に残っていると思っています。

白木賢太郎コーチ



開催を支えてくださった皆さんからの応援メッセージ

自分が体に気づけることはスポーツ選手に限らず、人生を「本気」で生きていく上で大切。

子どもたちは、これをきっかけに、自分の体に「気づける人」になってほしい。

大人が、子どもの大会にこんなにも本気で動いている。子どもたちに伝えたい、もっと声を、自分を出していい。君たちはいい環境にいるんだよ、と!

●三村久美子さん／協賛企業

レアーレカップは、子どもが主役で本当に楽しい。それが子どもたちの表情にあります。私はスポーツ写真が好きです。自分の写真技術で大会を手伝えるのが本当に嬉しいです。

●坂田記一さん／セレクター

U-12 REALE CUP 2021開催を支えていただいた企業・個人の皆様

ご協力ありがとうございました!

(敬称略)

《協賛》

株式会社あすばほ Atelier. YOKO UEDA
伊豆シャボテン動物公園グループ
株式会社伊原工業 もみほぐし道場いやしMAX
SSP Group株式会社 大場晃利
片岡大輔 有限会社木村衛生社
株式会社ジユエルオート G-word 株式会社ビクス
秀丸 makahou 三村商事 ミラコロ合同会社

《物品協賛社様》

株式会社ネオライズ KLANKA
魯山人俱楽部株式会社
ファイテンショップららぽーと沼津店
株式会社スープルウーナ Cloud 9
Pizzeria gitalia da Filippo
有限会社 三村商事

《協力》

制作／株式会社ベストプロデュース
MC／つつみ慶
カメラマン／杉崎真一
映像撮影／津曲裕之・浦田拳一
演出協力／合同会社アーツインベータジャパン
WFP LOGOデザイン／上田陽子
ポスターデザイン／hane.art
参加証明書筆耕／乙坂明美